

## ヨシュア記、士師記、ルツ記 結晶の学び

### 標語

カナンの地には予表において二重の意義があることを、わたしたちは知る必要があります。積極的な面で、カナンが予表するのは、計り知れない豊富を伴う、すべてを含むキリストです。消極的な面で、カナンが表徴するのは、サタンの暗やみの王国の天的な部分とそのサタンの勢力です。

わたしたちは神の建造のためにすべてを含む地としてのキリストを完全に獲得し、所有するために、主の直接の、直の臨在によって守られ、支配され、管理され、導かれることを学ばなければなりません。わたしたちは主の臨在を持つなら、知恵、洞察力、先見性、事物に対する内なる認識を持ちます。主の臨在はわたしたちにとってすべてです。

わたしたちは、不法から、また不法の働き人となることから救い出され、神に仕えるという原則に従うことによって、神の目に正しいことを行ない、旧創造におけるサタンの大混乱を征服し、新創造のために神聖なエコノミーを遂行する必要があります。

正常なクリスチャンとなり、今日の勝利者の一人となり、主の現在の召しに答え、主の回復における彼の現在の必要に応じるために、わたしたちは今日のルツとなって、神のエコノミーに転換し、インマヌエルの地に入り、キリストと結婚する必要があります。それは、わたしたちがキリストをもたらして、神と人の両方の、今日の必要に応じるためです。

## ヨシュア記、士師記、ルツ記の隠された、内在的な意義

1. わたしたちは旧約の歴史と預言の学びにおいて、聖書全体の完全な視野、完全な展望を必要とします。それはキリストと召会のための神の永遠のエコノミーに関してであって、このことは新エルサレムにおいて究極的に完成します。このことはわたしたちに、旧約の歴史を提示し、預言を与えることで、神の目的のより広い展望だけでなく、より深い内在的な意義を与えます。旧約のすべての歴史と預言についての視野、中心、内在的な意義は、キリストと彼のからだでなければなりません。キリストのからだは、神の永遠のエコノミーのために、新エルサレムにおいて究極的に完成します。
2. 神は、そのような彼の永遠のエコノミーを完成するために、天を地のために、地を人のために創造する必要がありました（ゼカリヤ12:1）。神は人を彼のかたちに、彼の姿にしたがって、霊のある者に創造し、人が神と接触し、神を受け入れ、神を保ち、神を人の命また内容とするようにされました。とても悲しいことに、この人は神から、また神のエコノミーのための神の定められた御旨から墮落しました。その後、墮落した人類から、神はアブラハムという名の人と彼の子孫を選んで、彼らを、あらゆる諸国民（異邦人）の間で彼の愛する選民として、特別な民とされました。神は彼の永遠のエコノミーを成就するために四百年以上をかけて、そのような選民を生み出し、構成し、形成して、アダムの種族を置き換えました。神はそのような彼の選民に、エジプトと荒野の両方における試練、苦難を通過させられました。それは、彼らが訓練され、取り扱われ、資格づけられて、神と協力し、この地上でキリストのために神の約束された地を取り、正しい人たちを備えてキリストを人類の中へともたらすためでした。キリストのために神の約束された地を所有することと、正しい人たちを備えてキリストを人類の中へともたらすことは、ヨシュア記、士師記、ルツ記の三巻における、旧約の歴史の区分の二つの主要な点です。この二つの主要な点、すなわちキリストのために地を取ることに、キリストのために真の祖先を備えることは、ヨシュア記からルツ記の歴史の霊です。それらは旧約の歴史のこの区分の隠された内在的な意義です。わたしたちはこれについて明確なビジョンを持たなければなりません。そうでないと、これら三巻の書についてのわたしたちの結晶の学びは、ユダヤ人であれクリスチャンであれ、多くの歴史家、聖書を学ぶ人たち、聖書教師たちの研究のように、むなしなものになるでしょう。
3. わたしたちが主のあわれみによってそのようなビジョンを見るなら、旧約における歴史のこの区分は、新約と同じほどわたしたちに益を与えるでしょう。そのようなビジョンはわたしたちを助けて以下のことを見させます。すなわち、地上での神の民の歴史は、実は働く神が旧約における神の選ばれた民の間で活気づける歴史であり、また活動する神が彼の贖われた民の中で活気づける歴史でさえあり、彼らを神と共に活気づけて、キリストと彼の増し加わりに関する神の永遠のエコノミーを完成し、新エルサレムにおいて究極的に完成します。わたしが望むのは、

この訓練を通して、わたしたちがみな、自分の生活、日常の歩み、学校生活、仕事、事業が今日、地上での神の驚くべき卓越した行動における神の歴史の一部でなければならないことを見て、認識することができるようになるということです。正常なクリスチャンとなり、今日の勝利者の一人となり、主の現在の召しに答え、主の回復における彼の現在の必要に応じるためには、いわゆる良い兄弟や良い姉妹となり、召会の集会に定期的に参加し、正しく振る舞い、人の目にいくらか完全である生活をするだけでは、絶対に十分ではありません。わたしたちは以下のことにおいて神と一になる必要があります！ すなわち、神が神の愛する勝利者たちの中で行動し、活気づける神の歴史において、また命において、生活において、この地上での今日のわたしたちの行ない全体において、神と一になる必要があります！ わたしたちは神の今日の歴史を書く必要があります！ わたしたちは、活気づける神と一になって、前進する必要があります！ 彼の中で！

彼と共に！彼によって！ 彼のために前進する必要があります！ わたしたちはバイタルになり、生き生きとしており、活動的である必要があります！ わたしたちは今日のヨシュアとカレブとなって、キリストのために神の約束された地を所有し、キリストの所有となる必要があります！ わたしたちは今日のルツとなって、神のエコノミーに転換し、インマヌエルの地に入り、キリストと結婚する必要があります。それは、わたしたちがキリストをもたらし、人の今日の必要に応じるためです。これがこれら三巻、すなわちヨシュア記、士師記、ルツ記の内在的な意義となるべきです。この訓練の結果は、キリストのために神の約束された地を獲得し、卓越したキリストをもたらし、神と人の両方の、今日の必要に応じることであるべきです。

## メッセージ 1

### ヨシュアに対する神の命令、約束、励まし

聖書：ヨシュア1:1-9

#### I. ヨシュアは、以下の面においてキリストの予表です：

- A. ヘブル語の「ヨシュア」という名のギリシャ語の同義語は、「イエス」であり（ヘブル4:8. 使徒7:45）、「エホバ救い主」、あるいは「エホバの救い」を意味します（マタイ1:21. 民13:16）：
1. わたしたちのリーダーとしてのキリストは、わたしたちの救いのキャプテンとしてのわたしたちの真のヨシュアであり（ヘブル2:10. 4:8）、わたしたちを栄光の中へと、また神の約束した地の安息の中へと導きます。その神の約束した地では、キリストがわたしたちの完全な平安と満ち満ちた満足となっています（2:10. 4:11. 申12:9. マタイ11:28-30）。
  2. ヨシュアは、律法（モーセによって表徴される）に置き換わる恵みとしてのキリストを予表します（ヨシュア1:2前半. ヨハネ1:17）。律法を与える者であるモーセが死んだとき、ヨシュアが入って来て、民を良き地にもたらしめました（ヨシュア1:1-4）。ヨシュアが予表している主イエスは、わたしたちのリーダーであって、わたしたちを彼ご自身の享受の中へともたらし、わたしたちの安息、良き地の実際となります（申8:7-10. 12:9. ピリピ1:19. エペソ3:8. コロサイ1:12. 2:6-7. ヘブル4:8-9. マタイ11:28-29）。
- B. アマレクに対する戦いにおいて（出17:8-16）、アマレクは肉を予表し、この肉は墮落した古い人の総合計です。ヨシュアは、現在の実際的なキリストを予表し、このキリストは内住し戦う霊であり、肉に対して戦い、肉を死に渡す方です（ローマ8:9-13. ガラテヤ5:16-17, 24）：
1. 肉の目的は、わたしたちをとどめて、わたしたちの良き地としてのすべてを含むキリストの満ち満ちた享受の中へと入らせないようにすることです。
  2. 神のエコノミーは、わたしたちを肉から救い出してその霊へともたらし、わたしたちに三一の神の豊富の祝福にあずからせます——ローマ7:17-8:2. ガラテヤ3:14. エペソ1:3-14。
- C. ヨシュアは四十歳の時、カレブに結び付きました。彼らは十二人の斥候のうちの二人であり、信仰に満ちた心を持ち、神の言葉を彼らの信仰として取り、神の民が良き地を所有するという神の權益を顧慮しました。荒野における神の贖われた者たちの間で、ヨシュアとカレブという二人の勝利者だけが良き地という賞を受けました——民13:30. 14:6-9, 27-30. ローマ10:17. ガラテヤ3:3, 5. ヘブル11:5-6. ピリピ3:13-14. 参照、使徒6:5：
1. 民数記第13章と第14章の記録によれば、イスラエルの民は不信仰という邪悪な心を持っていました。ヨシュアとカレブは民に勧め、警告して、「エホバに背いてはなりません」と言いました（民14:9）。これらの言葉は、主を信じないことが主に背くことであることを示しています——民13:31-33. 14:1-3, 6-11. 申1:26, 32。

2. わたしたちは、良き地としてのキリストを完全に所有しようとするなら、主に求めて、不信仰という邪悪な心を持つことから救っていただかなければなりません。そのようにかたくなな心を持つことは、生ける神から落ちていくこと、顔をそむけることです——申1:25-26, 28, 35-39. 9:23. 使徒6:5前半. ヘブル3:7-13。
3. わたしたちのクリスチャンの歩みは、見えるものによるのではなく、信仰によります（Ⅱコリント5:7）。ですから、わたしたちは絶えず、わたしたちの信仰の創始者また完成者であるイエスをひたすら見つめていなければなりません（ヘブル12:1-2）。わたしたちの信仰は、わたしたち自身から出て来るものではなく、彼から出て来るものであり、彼はご自身を信じる要素としてわたしたちの中へと分け与えて、わたしたちのために信じてくださいます（ガラテヤ2:20. Ⅱペテロ1:1）。
4. わたしたちは、クリスチャンにとって、不信仰は最大の罪であることを認識する必要があります。もしわたしたちが神の御言をつかみ、神の御言を信じるなら、すべてはうまくいきます。わたしたちが自分の感覚によって生きており、わたしたちの信仰の霊を活用せず、わたしたちの心を主に向けず、神の御言（すなわち、わたしたちに対する神の契約、神の遺言）の中の神聖な事実を信じることをしないなら、わたしたちは神の御言に背き、神を侮辱し、神を偽り者としています——申1:25-26. ヘブル3:12, 16-19. 4:2, 6. 11:1. ローマ3:4。
5. わたしたちは自分の罪の意識、感覚、環境という雲によって脅かされたり、恐れたりしてはなりません。わたしたちは新契約の下に生きなければならず、どんな失敗、弱さ、暗さ、消極的なことも信じてはなりません。わたしたちは契約の民であり、あらゆる状況に応じる約束の御言葉を持っています——創9:8-17. 啓4:2-3. 哀3:22-23. ローマ8:1. Ⅱコリント12:9. Ⅱテモテ1:10. 2:1. ユダ24節. Iヨハネ1:9. Iコリント1:9。
6. わたしたちの霊は、新契約のすべての遺贈の実際としての、復活した霊なるキリストの「銀行口座」です。命の霊の法則によって、これらすべての遺贈はわたしたちの中へと分与され、わたしたちにとって実際となります。召会の民は契約の下にある民であるので、わたしたちは実は、契約の召会と呼ばれることができるのです——イザヤ42:6. 49:8. ローマ8:2, 10, 6, 11, 16. ヘブル8:10. ヨハネ16:13。

Ⅱ. 「あなたの生涯のすべての日々、だれもあなたの前に立ちはだかることはできない。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。強くあれ、大胆であれ。なぜなら、わたしが父祖たちに与える誓った地を、あなたはこの民に嗣がせるからである。ただ強く、大いに大胆であれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法にしたがって、守り行ないなさい。そこから右にも左にもそれてはならない。そうすれば、あなたはどこへ行っても成功する」——ヨシュア1:5-7:

- A. エホバがヨシュアに、「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる」と告げたことは、大きな事柄でした。ある時点で、主はモーセに、「わたしの臨在があなたと共に行って、わたしはあなたに安息を与える」と告げました（出33:14）。

モーセは神の心にとても近い、神の心にしがった人でした。ですから、彼は満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていました。

- B. 新約において、イエスの臨在はインマヌエルであり、「神われらと共にいます」を意味します（マタイ1:23. 18:20. 28:20）。キリストは実際の霊、命を与える霊として、インマヌエルであり、わたしたちの霊の中の神聖な三一の臨在です（Ⅱテモテ4:22）。
  - C. わたしたちは絶えずわたしたちの信仰の霊を活用して、強く、大いに大胆になって、良き地によって表徴されているすべてを含むキリストを、わたしたちの今日の嗣業の担保として享受すべきです。この担保は、次の時代における、また永遠における、すばらしいキリストの、わたしたちの満ち満ちた永遠の嗣業の見本です——Ⅱコリント4:13. エペソ1:14, 18. Ⅱコリント1:22. 5:5-6前半。
  - D. わたしたちは主をわたしたちの強さ、またわたしたちの大胆さとして受け入れて、どのような境遇の下でもキリストを大きく表現すべきです。これは、キリストを最高の享受をもって経験することです（ピリピ1:20. 4:11-13）。わたしたちは常に宣言することができます、「エホバはわたしの光、わたしの救いです。わたしはだれを恐れるでしょう？ エホバはわたしの命の力です。わたしはだれを怖がるでしょう？」——詩27:1。
  - E. 死はかつてわたしたちを王として支配していたので（ローマ5:14）、わたしたちは死の奴隷状態の下にあって、絶えず死を恐れていました。主が悪魔を滅ぼし、死を廃棄したので（ヘブル2:14-15. Ⅱテモテ1:10）、今やわたしたちにはもはや死の恐怖はなく、死の奴隷状態から解放されています。
  - F. 「エホバは彼の民を捨てず、また彼の嗣業を放棄されません」（詩94:14）。「主がわたしの助け手である。わたしは恐れぬ。人はわたしに何をなし得ようか？」（ヘブル13:6）。「もし神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵対し得るでしょうか？」（ローマ8:31）。
  - G. わたしたちは、わたしたちの神が与えてくださった霊を燃え立たせる者となる必要があります。この霊は、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊です（Ⅱテモテ1:6-7）。わたしたちの感覚は完全に偽りです。わたしたちは常に、わたしたちが強いこと、わたしたちが愛に満ちていること、わたしたちが非常に明瞭であることを信じ、宣言すべきです。そうすれば、わたしたちは「強く……大胆に」（ヨシュア1:6）なって、良き地の実際としてのすべてを含むキリストの中へと入って享受することができます。
  - H. わたしたちは、神の永遠のエコノミーの天のビジョンに関する聖なる言から「右にも左にも」それではいけません（ヨシュア1:7）。そうすれば、わたしたちはどこへ行っても成功し、主のものにふさわしく歩いて、「すべての事で主を喜ばせ」ます（コロサイ1:10）。こうして、わたしたちは移される前に、「神はある」ことと「わたしたちはない」ことを絶えず信じることによって、「神に喜ばれていた」という証しを得ることができます（ヘブル11:5-6. 創5:21-24）。
- Ⅲ. 「この律法の書をあなたの口から離すことなく、あなたはそれを昼も夜も口ずさみ、その中に記されているすべてのことにしがって、必ず行なわなければならない。そ

うすればあなたは自分の道を繁栄させ、また成功する。わたしはあなたに命じたではないか？ 強くあれ、大胆であれ。恐れてはならない、おののいてはならない。あなたがどこへ行っても、エホバ・あなたの神があなたと共にいるからである」——ヨシユア1:8-9：

- A. ヨシユアは神の言葉に占有されるべきであり、言葉に彼を占有させるべきでした（参照、コロサイ3:16）。ヨシユアは言葉で占有され満たされることによって、神の約束された地を取ることに於いて繁栄し、成功することができました。
- B. ヨシユアが神の御言の中に記されているすべてのことを遂行するかぎと、神の約束された地を取ることに於けるヨシユアの繁栄、成功、強さ、大胆さのかぎは、ヨシユアが神の言葉を自分の口から離すことなく、それを昼も夜も口ずさむこと（思い巡らすこと）でした。「あなたの口」という言葉は、口ずさむことがおもに声に出して語ることによって実行されたことを示しています：
1. 「口ずさむ（思い巡らす）」のヘブル語の言葉の意味は豊富です。それは、礼拝すること、自らと会話すること、声に出して語ることを暗示します。言葉を口ずさむとは、注意深く考察することを通してそれを味わい、享受することです——詩119:15, 23, 48, 78, 97-100, 148, 参照、9-11節。
  2. 祈ること、自らに語ることに、主を賛美することも、言葉を口ずさむことに含まれるでしょう。神の言葉を口ずさむことは、神の息としての神の言葉を享受し（IIテモテ3:16）、こうして神を注入され、神を吸い込み、霊的な養いを受けることです。
  3. 御言を口ずさむことは、牛が草を食べるように「反芻する」ことです（レビ11:3）。わたしたちは神の言葉を口ずさむとき、それを多くの考慮と再考慮をもって受けます。牛が反芻するように、わたしたちは朝早く御言葉を祈り読みするとき、これを行なっているでしょう。それによって、わたしたちは神の言葉から受けるものを再考慮することによって養いを受けます。
- C. 詩篇の作者は言いました、「わたしはあなたの教訓を思い巡らし、あなたの路を重んじます。わたしはあなたのおきてを喜びとし、あなたの言葉を決して忘れません」——詩119:15-16：
1. 詩篇の作者が神の言葉を口ずさんだ（思い巡らした）とき、神の言葉は彼の歓喜、楽しみまた喜びとなり（エレミヤ15:16）、彼は神の言葉を忘れませんでした。こうして、神の言葉は、彼にとって常時の、また永遠の養いとなりました（詩119:105, 130）。
  2. 神の言葉を口ずさむことによって、わたしたちは神の言葉を思い出し、神の言葉によって生かされます。「あなたのしもべへの言葉を思い出してください。あなたはそれを、わたしが待ち望むようにされました。これは、苦悩の時のわたしの慰めです。あなたの言葉がわたしを生かしたからです」——詩119:49-50。
- D. 御言葉を口ずさむことは、祈り読みよりもより豊かで、より広く、より多くのものを含みさえしています。なぜなら、口ずさむことは、祈り、礼拝、享受、会話、頭を垂れること、さらには両手を挙げて神の言葉を受けることを含むからです（詩119:48）。神の言葉にわたしたちの両手を挙げることは、わたしたちがそれを熱心に、

喜んで受け入れ、それに対してアーメンと言うことを示すことです（ネヘミヤ8:5-6）。

- E. わたしたちはこのように霊をもって主の言葉に触れ、彼との継続的な交わりの中にとどまるとき、聖書の言葉によって浸され、温められ、新鮮にされ、潤され、供給されているという感覚を持つはずです。わたしたちがすべき一つの事、最上の事は、彼に触れ、彼を礼拝し、彼を信じ、彼を吸収し、彼を享受し、彼を追い求め、彼を獲得することです——詩27:4。ピリピ3:8, 14。
- F. わたしたちは真に時間を取って神の言葉を口ずさむとき、神をもって注入されて、神をもって輝きにあふれ、神を輝かし出します（Ⅱコリント3:15-18）。こういうわけで、わたしたちはこのように歌うのです、「祈って主と行き来し、交わり、彼の御顔の輝きの中に浸ります。彼の栄光にあなたを浸透させることを通して、あなたが彼の御顔を映しますように（御かおのかがやき、われを照らして、われにしんとし、えい光かがやく）」（詩歌、568番、6節、全訳（歌詞））。
- G. わたしたちの主とわたしたちの神は、わたしたちにすべてを含む良き地の実際としてのご自身の中へと入って享受するように命じました。ですから、わたしたちは彼の言葉にアーメンと言って、強く、大胆になるべきであり、恐れたり、おののいたりしてはいけません。なぜなら、わたしたちがすべての諸国民を弟子とし、彼らを王国の民とならせているとき、エホバ・わたしたちの神は、わたしたちがどこへ行っても、この時代の終わりまで、彼の来臨の時まで、わたしたちと共にいるからです——ヨシュア1:9。マタイ28:20。